

令和 3 年度業務実績報告の概要

1. 重点項目の進捗状況、成果及び評価

令和 3 年度を第 3 期中期計画改革実施期間の 1 年目と位置づけ、理事長の下に魅力化推進本部を設置し、「地域貢献日本一」の目標に向かい様々な視点から大学改革を進めた。

重点分野 1：県民からの期待に応える存在意義の高い大学

- 令和 5 年 4 月に総合文化学科を「文化情報学科」へ名称変更し、文化の多様性と産業の情報化が急速に進む地域社会で活躍できる地域人材の育成を進めるため、地域や情報に関する教育の強化を図ることとした。
- 連携校推薦の導入により、高校在学中に地域課題に触れ、その学びを深めたいという意欲的な学生が数多く入学した。

重点分野 2：地域に貢献する人材を輩出する大学

- 地域人材の県内定着の受け皿となる企業や経済団体、自治体と連携協定を締結し、学生と企業、自治体等との交流機会を創出した。
- 「しまねの未来を担う人財奨学金」制度の創設、長期有償型インターンシップの拡充など、人材の県内定着の基盤整備を着実に進めた。

重点分野 3：地域が抱える諸課題に対応する研究及び教育を重視する大学

- しまね地域国際研究センターを開設し、県内の自治体や企業、NPO 法人等と連携した研究プロジェクト計 6 件（浜田 3 件、出雲 2 件、松江 1 件。採択額計 2,126 千円）を進め、研究成果を「KENDAI 縁結びフォーラム」で発表、地域のステークホルダーに還元した。

重点分野 4：国際交流・海外留学等の促進

- コロナ禍にあっても海外との交流を途切れさせることなく、バーチャル国際交流や海外協定校とのオンライン学生交流、オンライン異文化交流など工夫を凝らした交流を企画実施した。バーチャル国際交流では、卒業生、高校生も参加発表し、本学留学プログラムの利用経験から繋がるキャリア紹介や本学国際交流の魅力 PR にもなった。

重点分野 5：理事長・学長のリーダーシップのもと機動的かつ戦略的な運営を行う大学

- 理事長・学長の下に、「入試改革・高大連携」「キャリア戦略」「IR」「広報」「情報基盤」の 5 つの推進室からなる「魅力化推進本部」を設置し、大学改革の諸課題に機動的に対応するとともに、県内の関係団体等と連携しつつ地域貢献に資する施策を立案・実施した。
- IR 推進室で入試データの収集・分析を行い、入試制度の見直しを図った。一例として、短期大学部総合文化学科（「文化情報学科」）の令和 5 年度学校推薦型選抜においては、県内高校 1 校あたりの推薦人数を 2 名以内から 4 名以内へ拡大するとともに、応募条件から学力評定平均を除くこととした。

2. 業務実績の評価方法

- 法人が自己評価を行い、これをもとに島根県公立大学法人評価委員会が検証・評価を実施。
- 「大学の教育研究等の質の向上」以外の中期目標項目については、5段階で自己評価。
 （「教育研究等」については、評価委員会が「特筆すべき点」「遅れている点」として評価）

3. 実施状況

○自己評価の状況

	社会情勢の変化に 的確に対応した 大学づくり	自主的、自律的な組 織・運営体制の確立に 関する目標を達成す るために取るべき措 置	評価制度の充実及び 情報公開の推進に関 する目標を達成する ために取るべき措置	その他業務運営に 関する重要事項に 関する目標を達成 するために取るべ き措置
R3	A (4.50)	B (3.14)	B (3.00)	B (3.00)

4. 総評

- ・第3期中期計画改革実施期間の1年目にあたる令和3年度計画は概ね達成できたものと判断する。
- ・引き続き、県内入学者の増加、地域人材育成のための教育プログラムの充実、卒業生の県内定着に向け一層の取り組み強化を図っていく。
 また、魅力化推進本部を中心に大学改革の実現に向けた取り組みを機動的かつ着実に実施する。

(参考) 年度計画項目別評価の評価基準

5. 報告書提出までのスケジュール

- 6/22 教育研究評議会
- 6/27 経営委員会・理事会
- 6月末 県公立大学法人評価委員会へ報告書提出
- 7/13 第1回法人評価委員会（浜田キャンパス）
- 8/3 第2回法人評価委員会（県庁）

